

派遣留学生帰国報告書

* 帰国（復学）後の情報を入力してください

記入日	2019/1/27
所属学部・ 研究科・学府	国際教養学部
所属学科・専攻	国際教養学科

1. 留学先について

留学先大学名	カセサート 大学							
留学先所属学部等	農学部熱帯農学科インターナショナルコース							
留学期間	出発日	2018/8/1	入学日	2018/8/3	修了日	2018/12/20	帰国日	2019/1/3
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介) の寮・アパ		<input type="radio"/> 民間アパート		<input type="radio"/> その他()			
	通学時間	約15分				<input type="checkbox"/> On campus		
	通学方法	大学のシャトルバス						
	居室スペース	個室	<input type="radio"/> (2) 人部屋	<input type="radio"/> その他()				
	共有スペース	完全個室	キッチン	<input type="radio"/> トイ	<input type="radio"/> バス	リビング	<input type="radio"/> その他()	
食事	自炊	10 %	学食	30 %	外食	60 %	その他 () %	
保険	海外旅行保険(名称)	海外保険たびほ						
	派遣先大学指定の保険(名称)						<input type="checkbox"/> 強制加入	
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
成田空港 ⇄ バンコク、ドンムアン空港(飛行機) ⇄								

2. 留学にかかった費用について

総費用	35~40万 円							
出どころ								
自費	貯金	円	<input type="radio"/>	アルバイト	50,000 円	<input type="radio"/>	その他	円
援助	<input type="radio"/> 両親	250,000 円	<input type="radio"/>	家族・親戚	100,000 円	<input type="radio"/>	その他	円
奨学金	JASSO	円	<input type="radio"/>	その他名称()		<input type="radio"/>		円
その他	千葉大学助成金	円	<input type="radio"/>	その他()		<input type="radio"/>		円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input type="radio"/>	現金	150,000 円	その他 ()	円
留学中		海外送金	<input type="radio"/>	キャッシング	その他 ()

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	
住居にかかった費用	1ヶ月ごとに寮のオフィスに現金支払い
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	パーツ	約18,000	約60,000	円
海外旅行保険	パーツ	約25,000	87,490	円
CSSMA	パーツ	約5,700	19,440	円
査証・在留許可証	パーツ	約4,500	約15,000	円
住居	パーツ	3,000×5=15,000	約52,000	円
食費	パーツ	約3,300	約12,000	円
通学に要する交通費	パーツ	0	0	円
教科書、教材費	パーツ	0	0	円
その他大学に支払った経費	パーツ	680	約2,400	円
光熱費	パーツ	約900×5=4,000	約14,000	円
その他 (自転車レンタ)	パーツ	500	約1700	円
その他 (旅費)			85,900	円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex. 正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	○	無
1 Paradigm in Agriculture Extension	正規	3	有	○	無
2 Physiology of Horticulture Crops	正規	3	有	○	無
3 Introduction to Tropical Agriculture	正規	3	有	○	無
4 Thai Conversation in Everyday Life1	正規	3	有	○	無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

授業科目は、授業が始まってから2、3週間が登録期間になります。千葉大学と同様に最初の1週間で取りたい、興味がある授業に参加してから選ぶことができます。受けたい授業を決めたら、履修登録の紙にそのすべての授業の教授にサインをもらい、それが完了したら学生一人につき一人のAdvisor(指導教員)がつくので、自分のAdvisorに確認してもらいサインをしてもらい、学部のオフィスに提出して完了です。履修登録後も変更は可能でした。

3-2. 授業内容、方法に関して

授業は基本的に3時間が長くても4時間の時間が確保されていましたが(私の場合8:00-12:00か9:00-12:00)、先生が遅れて、始まりが30分から1時間遅くなることや、担当教授がその日教えるべき内容を終わると、早めに終わることがよくありました。また、間に30分の休憩時間をくださる先生もいたので、実際に3、4時間しっかり授業を受けることは多くはなかった印象があります。1つの授業でも様々な教授が教えてくださることが多く、教授によって教える方法はまちまちでした。基本的にその日の授業のレジュメのコピーをもらい、それを参考に授業を進める先生が多かったです。授業によっては、実験だったりディスカッションがあったりしました。また、インターナショナルコースだったので、授業はすべて英語でした。

3-3. 語学力について

タイ人は英語を日常的に話すことはあまりなく、多数の人が英語を話すことができないので、買い物をしたり、タクシーに乗るときはタイ語を使うことが必須でした。大学内や、また若い人たちは英語が話せる人が多い印象でした。タイ語の授業を取っていたこととタイ人の友人が多かったことから少しタイ語を話せるようになりましたが、私の日常会話の中心は英語か日本語だったので会話が成立するレベルまで上達することは難しかったです。授業は英語でしたが、英語圏で学ぶほど英語を使っていなかったため、英語は思ったよりも上達しなかった印象です。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館は勉強スペースが充実しており、テスト期間は混みますが席が埋まることはあまりなかったと思います。また、テスト期間は24時間開放していました。寮の近くに大学と提携しているカフェ型の勉強施設もあり、そこは常に24時間開いており、席も座敷だったりカウンターだったりバリエーション豊かで、飲み物も充実していたので私はそこをよく利用していました。学内には多くの食堂があり、さらに1食100円ほどで食べられるので、お昼はほとんど学食を利用していました。朝や夜も開いていたので、たまに朝食や夕食を食べに行ったりしていました。また学生が無料で利用できるジム、プール、トラックもあり学内施設は充実していたと思います。

3-5. その他

カセサート大学にはバディ制度があり、留学生一人に一人、留学生との交流を望むタイ人学生がつきます。どのくらいサポートをしてもらうかは、学生同士によりませんが、困ったことや聞きたいことがあれば助けてくれました。週末どこかへ連れてってくれるバディもいました。バディを通じてタイ人の友達が増えたり、タイの文化について教えてもらったりできたのでありがたかったです。

4. 生活面

4-1. 住居について

住居は大学から無料のシャトルバスで10分から15分の場所にある留学生寮に住んでいました。完成してから2、3年しか経っていない建物だったので、とても綺麗で施設も充実していました。部屋は二人一部屋で、各部屋にエアコン、トイレ、シャワー、洗面台、クローゼット、テレビ、机、ベッドなどが備え付けられており、生活に困ることはありませんでした。私は、韓国人の女の子とルームシェアしてましたが、とても仲良くなったのでルームシェア自体も全く苦ではありませんでした。洗濯は、一階にコインランドリーがあったので週に1回100円ほどで済ませていました。また、共同のキッチンがあり、フライパン、食器、炊飯器など料理をしたいときは自由に使うことができたので、たまに作っていました。近くにセブンイレブン、レストランなどもあり、夜はストリートフード店が並ぶので食べるものにも困りませんでした。

4-2. 食生活について

もともとエスニック系の料理が好きだったのもありますが、食べたものほとんど口に合いました。ただ前よりは慣れたものの、タイの辛さには最後まで慣れませんでした。トムヤムクンやソムタムなど味付けの辛いものを注文するときは必ず、辛さ抜きで注文していましたがそれでも辛く感じました。カオマンガイやカイジャオなど、全く辛くない料理もたくさんあるので大丈夫でした。学校内や寮の周りなどにはレストランや屋台が充実しており、値段も安かったので食費はほぼ毎食外食でしたが、そこまでかからなかったと思います。朝は時間がなかったので、コンビニのパンなどで済ませることが多かったのですが、昼と夜は大抵近くの飲食店を利用していました。留学前はお腹を壊すことを心配していましたが、普通に生活している分にはほとんどそういったことはありませんでした。ただマーケットで雨の日に海鮮を食べた時に一度ひどい腹痛に

4-3. インターネット環境、携帯電話について

携帯電話は日本でSIMロックを解除していき、ドンムアン空港に着いた時に現地のTRUEという会社のSIMカードを購入しました。最大で30日のプランのものしかなかったので、30日経つ頃にタイ人の友人に手伝ってもらいながらプランを変更しました。速度1Mbps、Unlimitedインターネット利用、通話なしのコースで1ヶ月約300バーツほどだったと思います。寮や大学内は学生が利用できるWiFiが通っていたので、速度の遅いコースでも十分でした。

4-4. 服装について

大学には毎日制服を着ていかなければならなかったのですが、授業がある日は制服を着て過ごしていました。カセサート大学には学部ごとにジャケットがあり、それを購入すればTシャツとジーンズの上にそれを着て登校することもできました。靴は、サンダルはあまり好ましくないようですが、履いている学生が多かったです。

4-5. 健康管理について

もともと風邪を引いたり、体が弱い体質ではなかったのですが、普通に生活している限り体調を崩すことはあまりありませんでした。ただ外は暑く、室内はエアコンが効きすぎて寒いことが多かったので軽い上着を一枚持っていくことが多かったのです。あとは日本にいる時と同じように、しっかり睡眠と食事を取るよう心がけていました。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

保険、OSSMAは登録していましたが、ありがたいことに利用することは一度もありませんでした。

4-7. 課外活動について

クラブ活動は特定のクラブに入ってはいませんでした。友人が所属していたバンド部、写真部、イーサンクラブにたまに遊びに行っていました。バンド部ではギターを習ったり、一緒に演奏して歌ったりしていました。写真部はもともと写真を撮ることが好きだったので、友人に誘われて写真部の小旅行に行ったり、ハロウィンパーティに参加したりしました。イーサンクラブはタイの東北地方出身の学生が多く集まっており、イーサン料理を食べたりゲームに参加したりしました。学校外ではスラムにある図書館に週に1回ほどボランティアに行っていました。子供と折り紙をしたり、英語を教えたり、料理をしたりしました。また、その団体が立ち上げたブランドのお手伝いも少ししていました。そのボランティア先のつながりで大使館の方や国連の機関で働いていた方々にお話を聞きに行ったりもしていました。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

ボランティアを学校とは別にしていたので、そこを通じて出会った人は多くいます。私と同じようにタイの大学に交換留学で来ていた学生やその団体でインターンをされていた日本人大学生に会うことができました。ボランティア先の方々もほとんどはタイ人でしたが、よくしていただきました。また、私がやっていたプロジェクトがきっかけで、バンコクの日本食レストランのオーナーさんにお話を伺いに行ったりもしていました。

4-9. 日本から持参してよかったもの

100円ショップで買ったお土産(ちょっとしたお礼をしたい時に役立った)、化粧品(現地だと日本の化粧品はあるが高い)、日焼け止め(現地だと値段が高い)、お菓子(たまに恋しくなる)、文房具(日本製品の方がクオリティが高いので使いやすい)、イヤリング(タイはほとんどピアスしか売っていない)、タイ語の本(日本語からタイ語の本は売っていない、タイ語を勉強する時に便利)、カメラ

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

変圧器(パソコンやスマートフォンには変圧器が必要ではなく、カメラを充電するときはパソコンを介しての充電で十分だった、ドライバーなどは現地で購入した)、

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

タイは仏教国でオレンジ色の布を身につけた僧侶を見ることが多いです。電車やバスに乗っていたら、ドアから一番近い席を僧侶に譲らなければなりません。また、修行中は女性に触れることはできないので、あまり触れないように気をつけていました。また、タイ人は「ワイ」(合掌)の文化があります。先生や年上の人に会ったときは手を合わせながら挨拶します。目上の人には敬意を払うので文の語尾にカー(女性)またはクラップ(男性)をつけます。タイ人は基本的に社会的で優しく、親日な人が多いのでとても接しやすかったです。また、すべてのことを「マイペンライ(気にするな)」で片付けてしまうので、少し気にしなすぎなところがありますが、そういうおおらかな性格が好きでした。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

【タイ・アユタヤ】2018年8月(1日間) 約600円
 【タイ・プーケット】2018年9月(4日間) 約2万円
 【タイ・カオヤイ】2018年10月(2日間) 約1500円
 【タイ・アユタヤ】2018年10月(1日間) 約600円
 【ベトナム・ホーチミン&ダラット&ムイネー】2018年10月(4日間) 約3万円
 【タイ・チェンマイ】2018年11月(3日間) 約8000円
 【タイ・カオヤイ】2018年11月(3日間) 約200円
 【タイ・サコンナコン&ナコンパノム】2018年12月(3日間) 約1万円
 【タイ・チェンマイ】2018年12月(4日間) 約1万5000円

その他 *気分転換やストレス発散法など。

日本食を食べる、カラオケに行く、マッサージに行く、映画を観に行く、友達と遊びに行く、バーに行く、買い物に行くなど

5. その他

5-1. 留学先大学について

カセサート大学は、タイで初の国立農科大学として1943年に設立されました。タイ国内に4つのキャンパスがあり、全部で28学部あります。私は最も学生数の多いバンコクにあるバンケンキャンパスで勉強していました。バンケンキャンパスはバンコク中心部から少し離れたところにありますが、2020年完成予定のBTSという電車の駅が近くにあるので、便利になることが予想されています。インターナショナルコースは農学部、経済学部、人文学部、工学部にあり、留学生とタイ人半分ずつくらいの人数で授業を受けます。留学生ともタイ人学生とも交流が多いので、友達を作るのには困りませんでした。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

タイは、英語を勉強するために留学するのならオススメはしませんが、タイはとてもいい国で、面白いところも多くあるので、アジアに留学してみたい、色んなことに挑戦したいと思う人にはオススメです。タイは汚いというイメージがあるかもしれませんが、全くそんなこともなく、人も優しく、物価も安く、食べ物も美味しいので、とても生活しやすいです。また、カセサート大学は農学に強い大学で、学科がとても幅広く、色々な分野の専門の先生が授業してくださり面白かったです。

5-3. 留学を終えて

今回の留学は特に出会いの多い留学だったと思います。幸運なことに友人にも恵まれ、様々な人たちに会うことができました。私は熱帯の農学を学ぶことと途上国を見ることが留学当初の目的でしたが、それ以上のものを得られた留学になったと思います。留学は何度かしたことはありましたが、東南アジアに行ったのが初めてだったので驚くことは何度かありましたが、いい意味でそれらが刺激になりました。タイ人は、日本人と比べてかなり寛容で明るい性格をしているように感じました。ジェンダーに関しても、みんな本当にオープンで、周りの人と違うとか一緒だとか、そのような概念すらないように思いました。何か失敗しても、マイペンライ(大丈夫)の一言でたいてい場合は片付けられますし、外国人に対しても偏見の目はなく、とても親切な印象でした。タイ人のそのような性格が好きだと感じると同時に尊敬の気持ちもあり、タイという国を自体知れば知るほど奥深く、今ではもっと知りたいなと思っています。大学での留学は自由度が高く、私はやりたいと思うことのほとんどを達成することができたと思います。旅行だったり、友達と遊ぶことはもちろん、農業について学んだり、自分で見つけたボランティアに通ったり、知り合いを通じて自分に合ったインターンを見つけたり、国際協力を仕事として活躍している方々にお話を聞きに行ったり。日本だったらここまでアクティブに活動してなかったと思います。半年間という時間制限もそうさせてくれた要因だと思いますが、留学前に簡単でも目的や目標を定めていたことが大きかったと思います。この留学で何を学んだかを一言で示すことは難しいですが、この留学は自分を大きく変えてくれたものになったと思います。自分の将来についても考え直すいいきっかけにもなりましたし、自分の悪いところも見えましたし、逆に自分に自信がつくようにもなりました。日本に帰ってからもタイで感じたこと、学んだことを忘れずに過ごしていきたいと思っています。